

## 談話室

東京大学先端科学技術研究センター  
の組織と構成

木原 諄 二\*

## 1. 先端科学技術センターの発足

センターの発足は、1987年5月21日に遡る。1981年に、東京大学宇宙航空研究所の宇宙部門が、東京大学から分離独立して宇宙科学研究所として発足し、東京大学に残留した諸部門は工学部付属境界領域研究施設となり、7年間の時限組織として、本年3月31日まで存続してきた。先端科学技術研究センターは、工学部付属境界領域研究施設を換骨脱胎した、学内独立部局としての学内共同利用研究機関である。工学部付属境界領域研究施設が廃止される前の年度に、7研究分野、すなわち化学認識材料、フォトニクス材料、耐環境材料、光デバイス、生体計測、都市環境システム、社会技術産業関連の各分野が、工学部・医学部・経済学部および教養学部から配置転換された教官によつて活動を開始した。

## 2. センターの組織の完成

本年4月、本センターはさらに12分野の研究分野を加え、本格的に発足した。研究組織は4大部門にそれぞれ各分野が分属している。また、19分野の基幹分野に加えて、企業からの寄付に基づいて開設される寄付研究分野と民間からの客員教授を招聘できる客員分野とを置くことができる。本年度はそれぞれ4分野づつ設置されている。

以下に各大部門ごとの分野構成を示す。

## (1) 先端材料大部門

## 基幹分野

化学認識材料、フォトニクス材料、耐環境材料、分子情報機能材料、ロボチック材料

## 寄付研究分野

未来材料(新日鉄)

## 客員分野

界面機能材料

## (2) 先端デバイス大部門

## 基幹分野

光デバイス、生体計測、高速電子機能デバイス分野、極小デバイス、物理情報変換デバイス、バイオセンサー

## 寄付研究分野

コンピューター・通信(NEC)

## 客員分野

新レーザーデバイス

## (3) 先端システム大部門

## 基幹分野

都市環境システム、バイオメカニクス、巨大システム、知識処理・伝達システム、ファクトリーオートメーション

## 寄付研究分野

電気通信(NTT)、情報科学(CSK)

## 客員分野

システム・テロテクノロジー

## (4) 社会・科学技術関連大部門

## 基幹分野

科学技術産業関連、情報技術社会関連、科学技術倫理

## 客員分野

技術アセスメント

なお、これら基幹分野のうち、情報技術社会関連と科学技術倫理は、前者が助教授のみ、後者が教授のみの不完全講座である。また、客員部門はすべて教授1人のみの構成員となつている。教官の出身分野は、工学系が最も多く、その他は医学系、経済系、人文系から1~2名参加している。寄付研究分野には、合衆国をはじめオーストラリアやフランスおよびデンマークからサバティカルリープを利用して、すでに10人以上の教官が着任し、研究活動や学問の国際交流に成果を上げている。ただ、本会に関係の深い材料やデバイスなどのハードウェアを要する分野では、予算面や設備面の問題があるので、サバティカルリープの期間だけでなく、数年にわたつて本格的に仕事を目的で来日する外国人研究者を得るのが非常に困難である。良い候補者に心当たりがあれば、ご連絡いただきたい。

## 3. おわりに

本センターは、材料から社会科学技術関連までの広い専門分野を網羅して構成されている。そして、各専門分野の取り扱う対象はUp-dateな問題である。このことは、本センターの今後の在り方を規定するものと考えられる。それは、学際性とともに関係の構成員の流動性である。

また先述したように、本センターの寄付研究分野には、教官として、特に外国人を任用することを方針としている。それは国際交流の一つのモットーとしているからである。そして、学内共同利用機関ではあるが、学内ばかりではなく広く社会に成果を還元し、また外界からの情報等の導入を盛んにするなどの、公開性を高めていくことを目標にしている。

昭和初頭に、当時の先端科学技術研究の組織として生まれた航空研究所のキャンパスを引き継いで、現代の先端科学技術研究組織が発足したことには、なんらかの意義がある。

\* 東京大学先端科学技術研究センター 工学部教授 工博